



## Contents

「全学FDワークショップ@キャンパス」が  
国際関係学部にて初めての開催 **2**

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 **3**

第8回 [理工学部] 「ちょっぴりコツコツ」が効くパワーアップセンター基礎講座

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第9回 経済学部 Webサービスの事前事後学習への活用例

TOPICS // 「日本大学 学生FD CHAmmit 2017」開催 **4**

### COVER PHOTO

危機管理学部の学生が、「危機管理基礎演習II」での学修をもとに、国土交通省のプロジェクトに参加して実施したアンケートの様子。駅を利用する乗客を対象にした、交通機関における映像情報の利用に関する調査を行った。(担当教員：危機管理学部教授 河本志朗)

# 「全学FDワークショップ@キャンパス」が 国際関係学部にて初めての開催

平成30年2月21日(水)、第1回「全学FDワークショップ@キャンパス」(以下、@キャンパス)が国際関係学部及び短期大学部三島校舎の教職員合同で、国際関係学部15号館にて開催されました。

## ◎“学生と向き合う”FDerの養成を目指して

これまでFD推進センターが主催する「全学FDワークショップ」は、平成25年から年1回実施され、教職員参加型のワークショップを通じて教員の資質の向上、ファカルティ・ディベロッパー(以下、FDer)の養成を行ってきました。『大学教育における課題の解決にむけて－教育能力の開発(Faculty Development)を企画・運営できる人材の育成－』をテーマとし、主に初年次教育のカリキュラムプランニングについての研修を実施していました。

しかし、日本大学教育憲章に基づく学生の育成を着実に推進すること、また、養成することができるFDerの人数に限りがあることから、FD推進センター中期計画に基づき、全学FD委員会プログラムワーキンググループでは「全学FDワークショップ」で培った資源を基に各学部等でワークショップを行う、@キャンパスを企画しました。また、各学部等においてFDワークショップを独自に開催しうる環境を整備することも目的としています。

## ◎国際関係学部のオーダーメイドワークショップ

@キャンパスは、FD推進センターと各学部等が調整し、開催スケジュールを組むことができ、1日開催が複数日開催かを選択することも可能です。



教職員混合班にて活発な意見交換が行われ、プロダクト作成に取り組んだ。

今回、国際関係学部では、2年生が受講する“世界の食”という授業をテーマとして設定し、カリキュラムプランニングを行う1日完結型のワークショップを開催しました。“世界の食”をテーマにしたのは、平成28年12月18日開催の「日本大学 学生FD CHAmmit 2016」において、“あったらいいな、こんな授業”という企画のなかで、国際関係学部及び短期大学部三島校舎の学生が世界の食に関するシラバス作成を行ったためです。

事前準備として、国際関係学部及び短期大学部三島校舎のタスクフォースが、全学FDワークショップでの資料の検討・改良を行い、今回の@キャンパス用にアレンジをしました。また、平成30年1月30日には、第1回タスクフォースミーティングが実施されました。

@キャンパス当日は教職員17名、タスクフォース7名、全学FD委員会プログラムワーキンググループ3名の全27名が参加しました。参加者は3グループに分かれ、スモールグループディスカッション(以下、SGD)を行いました。教職員・タスクフォース24名の構成は、学部教員13名、短大教員5名、職員6名で、教職協働で行われました。

開会式では、ディレクターの渡邊武一郎学部長による挨拶の後、ワークショップの進め方をモデレーターの中中康資教授(全学FD委員会プログラムワーキンググループメンバー)が説明しました。

その後、ワークショップがスタートしました。まずは、KJ法を用いて“2年次教育の問題点”の抽出を行い、各グループで学修目標の設定をしました。Aグループは“食のグローバル化論”、Bグループは“おいしさコミュニケーション論”、Cグループは“ハラルと祈り”とカリキュラム内容を決め、各グループでSGDを行いました。



プログラム修了後、全員に修了証を授与。教職員17名が参加。

その後、学修方略、学修評価の説明を受け、全体でも発表・討議を行い、各グループの内容を共有しました。閉会式での各人の感想から充実した議論であったことがうかがえました。

## ◎さらなる広がりを見据えて

今回行われた@キャンパスは国際関係学部にとっても、FD推進センターにとっても“最初の一步”となります。学生が興味を持って授業を受講できるシラバスを作成した経験を通して、教職員のFDやシラバス用語への理解が進み、今後のシラバス作成への活用が期待できます。今回のワークショップをきっかけに、今後の国際関係学部におけるFD活動が大いなる飛躍をし、更なる成長を続ける事を願っています。

今後も、@キャンパスでは、大学全体や各学部等において日本大学教育憲章に基づく学生の育成を行う意識の醸成とその教育課程の編成の具体的な手法の獲得を目的として、各学部等での開催を積極的に行う予定です。各学部等で@キャンパスが実施されることによって、各学部等でのFD活動が推進され、ひいては日本大学全体の教学改革が進みます。

そのためにも、教育に携わる個々の教職員の真摯な取組が必要です。是非、全学FDワークショップ@キャンパス開催への申し込み、全学FDワークショップへの参加をお願いします。(全学FD委員会プログラムワーキンググループメンバー 薬学部 高島亨)

連載

部科校における学習支援等の事例紹介

第8回 [理工学部] 「ちょっぴりコツコツ」が効くパワーアップセンター基礎講座

理工学部パワーアップセンターは、高校までの学習内容・学習量の変化と多様化に対応し、学生の学習を支援するために設立され、学習支援のための個別指導、基礎講座、そしてネイティブによる英会話講座等の講座を開講し、多くの学生をサポートしています。

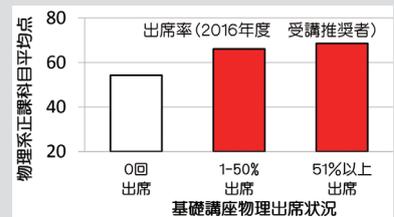
理工学部では、特に学力に不安のある新生に向けてパワーアップセンターの活用を強く指導しています。新生生約2,000名全員が4月初めに、学力調査（高校レベル英語・数学・物理・化学テスト）を受けます。その結果を基に、各学科の担当が受講指導・面談等を行い、基礎

講座の受講や個別指導の活用を推奨します。中でも学力調査の結果が低かった学生には受講推奨者として受講を強く勧めています。物理受講推奨者は、物理正解率約20%以下の学生（150～200名程度）が、例年対象となっています。

基礎講座は、義務や制約はなく自由に参加でき、大学の正課科目の単位や成績に何ら影響しません。基礎講座物理は昼休みを利用した30分間のショート授業を特色としており、週2回12週で正課の物理系科目と連動した授業内容を学習します。学生の負担にならず「ちょっぴり」を「コツコツ」とやることで基礎学

力の基盤を「ちゃっかり」作っていくことを目指しています。

その結果、半分以上出席した物理受講推奨者は物理系正課科目の成績が明確に向上しました（下記図）。これは例年、同様の結果が得られています。「ちょっぴりコツコツ」で「ちゃっかり」効くセンター利用を推奨していきます。（教授 伴 周一）



物理系正課科目平均点と基礎講座物理出席状況の関係。

連載

授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第9回 経済学部 Webサービスの事前事後学習への活用例

経済学部にはEcoLink（エコリンク）というWebサービスがあります。学生はこれを使ってシラバスを見たり、受講登録などの手続きができる他に、担当教員との間でファイルのやり取りを行ったり、教員が受講生に対してテストやアンケートを実施することもできます。

今回は、エコリンクを授業の事前事後学習に活かしている実例を紹介します。一般教育科目の「心理学」という授業（受講生およそ250名）です。まず、毎回の講義資料をアップしてあるので、学生は授業前に目を通しておくことができます。そし

て、毎回の授業終了後、学生は、エコリンクのアンケート機能を使い、「1. 分かったこと」「2. 分からなかったこと」「3. 自分で調べてみて新たに分かったこと（任意）」を授業終了後1週間以内に回答します。学生の回答は直ちに集計され、教員が見ることができるとのこと（右図）、理解の不十分な点は次回授業で補足します。また、第3問に学生たちが書き込んだ具体例や関連する研究論文のうち興味深い内容のものは、次回授業で紹介します。回答の提出を平常点に組み込んでいるため、授業出席者の約9割が提出しています。以

前はリアクションペーパーを書かせていましたが、エコリンクを利用することにより、事後学習を促進する効果も生まれました。学生からも「毎回の授業後課題があったことで、授業以外の時間でも授業ノートを開くよい機会になった」という感想が寄せられています。（教授 伊佐敷隆弘）



EcoLinkを使ったアンケートの回答集計結果画面。

# TOPICS // 「日本大学 学生FD CHAmmit 2017」開催

今回で5回目を迎えた「日本大学 学生FD CHAmmit 2017（以下、CHAmmit）」は、前回同様に「これまでより一歩進んだCHAmmit」を合言葉に掲げ、活動内容を形に残せるような仕組みを考えながら準備が進められました。

今回のテーマは、初年次教育の学びに焦点をあてた「ピカピカの1年生を創るための教職学改造計画」。「どのような授業があればピカピカの（充実した）1年生（初年次教育等）を創ることができるか」という思いを込めて、学生スタッフが決しました。

また、過去のCHAmmitとの大きな違いとして、本学教員に配布されている、『“自主創造”のためのTeaching Guide』の1ページにCHAmmit開催により得られた学生・教員・職員の意見をプロダクトとしてまとめ発信するという目標のもと活動を開始しました。

## ◎「新たな初年次教育をつくろう」

「CHAmmit 2017」は、CHAmmit単独の開催としては過去最多の247名が参加し開催されました。オープニングでは、学生FDやCHAmmitの説明等を全体に向けて行い、早速「アイスブレイク」の会場へ移動しました。「アイスブレイク」では、昼食を食べながら各々大学生活における失敗談を基に自己紹介を行い親睦を深めました。

続いて行われた「しゃべり場」は、4段階で構成されました。まず「しゃべり場①」では、ワークシートを使用し、「初年次教育の課題」について学生・教員・職員ごとのグループに分かれて意見

交換を行いました。これはCHAmmitの歴史においても初めての試みです。次に、それらの意見について、学生・教員・職員三者が交ざり合い、「しゃべり場②」においてグループで共有を行いました。続く、「しゃべり場③」では、これまでのしゃべり場での意見交換から、初年次教育の学びについて、各グループごとに1つのプロダクトとして「Re:Teaching Guide」にまとめる作業を行いました。「しゃべり場④」では、「しゃべり場③」でまとめた「Re:Teaching Guide」の内容を他グループと共有すると共に、個人レベルで今後どのように大学生活を過ごしていくかの決意を發表しました。

エンディングでは、Webによるアンケート調査を実施。また、34グループに分かれて行われた「しゃべり場」のプロダクトについて、優秀グループの表彰が行われました。

## ◎CHAmmitの更なる発展を目指して

第1回のCHAmmitでは、全ての学部の学生・教員・職員が一堂に会して意見交換を行うことも難しいとされていましたが、回数を重ねるごとにCHAmmitを全学的に実施することが当たり前となってきました。他大学をみても全学規模で毎年学生FD行事を行っているところはなく、5回目を迎えた「日本大学 学生FD CHAmmit」は一定の評価を得られると思います。

平成29年度には日本大学教育憲章が施行され、本学では「学生と向き合う」をキーワードとし、教員が「何を教えたのか」から学生が「何をできるようになったか」を重視するアウトカム基盤型教育の実現に力を入れ、成果を求めると共に、



『“自主創造”のためのTeaching Guide 2018』P.17に掲載教職員が積極的に「学生に向き合う」事により改革を推し進めようと動き始めています。

今回は形に残るCHAmmitとして、「CHAmmit 2017」の最終プロダクトを『“自主創造”のためのTeaching Guide』に掲載する事ができました。この結果は、本学学生FDの大きな一歩であります。是非とも内容についてご確認いただきたいと思います。

現状に満足せず、CHAmmitによって得た「気づき」を学修内容・環境等の変化に結び付け、形にすることは簡単ではありませんが、今後も学生・教員・職員が三位一体となり、CHAmmitの発展に結びつけていきたいと思ひます。

(学務部学務課)

\*本ニュースレターに記載した役職・資格・学年等は、平成30(2018)年3月現在のものです。

## 日本大学 FD NEWSLETTER 第13号

発行日：平成30(2018)年12月1日(年2回発行) ◎次号は2019年2月発行予定  
 発行所：日本大学FD推進センター センター長 滝合実  
 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315  
 e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/  
 所管部署：日本大学 本部 学務部学務課  
 企画・編集：日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部学務課 (adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp) へお寄せください。本ニュースレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright (C) Nihon University 2018 All Rights Reserved.

